

学習指導計画案（シラバス）

教科名	地歴	科目名	地理 A	単位数	2 単位
対象学年	第 2 学年		履修形態	必修	
学習の到達目標	1. 教材の内容及び用語の理解と習得を目指す 2. 地理的な理解方法と問題解決方法を身につける 3. 上記 1・2 によって得られた知識・技能・思考方法の発展的応用を目指す				
評価の方法	定期考査：70% 学習態度：10% 提出物等：20%				
使用教科書・副教材等	「地理A」（東京書籍）、「地歴高等地図」～現代世界とその歴史的背景～（帝国書院）、「地理Aワークノート」（東京書籍）				
授業形態	一斉授業、グループ学習（インターネットの活用）				

学習計画及び評価方法等						
学期	月	週	学習内容	学習のねらい・目標	備考(学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動との関連など)	考査範囲
第 1 学期	4 月	1	第 1 編 現代世界の特色と見方・考え方 第 1 章 球面上の世界と地域構成 [1] 球面上の世界・平面上の世界 [2] 日本の位置と領域 [3] 略地図をえがこう	○球面上の世界から様々な世界地図をイメージする ○地図の種類と用途に応じた利用の仕方を工夫する ○標準時と時差の発生—地球を24時間に分割する ○東アジアの位置づけと日本の位置関係を学ぶ ○国家の領域—北方4島の領有の推移 ○イメージと現実の違いを確認しよう	○地球儀をできるだけ用意して陸半球・水半球、地図投影法、時差等を捉えさせる ○身近な地図を新聞や書籍等で探し、その用途や利点について考えさせる ○海外旅行雑誌を用意して、旅行や現地時間等の条件をつけ、時差を調べさせる ○日本の領土の変遷とその時代背景を考えさせる ○略地図は白地図を使用したクロスワードパズル形式からはいとよい	第 1 学期中間考査
		2				
		3				
	5 月	4	第 2 章 結びつく現代世界 [1] 交通・通信の発達と世界の一体化	○地図の図法を変えて地球を眺めてみよう様々なメディアを通じて結びつく世界	○身近にある世界全図（雑誌、新聞、5000円札）を探し、その用途や特色をグループ学習させる ○家庭にある日本の電化製品や衣類の製造国を調べさせ、日本のメーカーの海外進出について調べて図化させる	
		5	[2] 「もの」と資本で結びつく世界	○市場経済と自由貿易でものが世界を駆け巡る ○企業は価格競争のために海外に進出する		
		6	-----	----- 第 1 学期中間考査及び解答解説 -----		

第 1 学 期	6 月	7 ~ 8	[3]人びとの移動で結びつく世界	○労働力の移動—外国人労働者の発生 ○移民・難民とは	○自分たちの居住している地域の外国人の数やその変化について調査させる。また、身近にいる外国人に聞き取り調査をして日本に来た理由を聞いてまとめてみたい ○世界における外国人の移動とその理由についてインターネットや書籍等で調べるのもよい ○EUやASEANの歴史的経過、役割、問題点等を対比しながらまとめさせる	第 1 学 期 末 考 査
		9	[4]国家間の結びつき	○3つの世界から2つの世界 ○地域間の結合の深まり	○身近にいる交換留学生や外国人教師、その他の外国人を呼んで、各国の余暇、豊かさ、ボランティア活動に対する考え方、世界の経済・政治問題などについてディスカッションをさせる ○旅行雑誌により、日程や目的など条件をつけて旅程を立てさせてみる	
		10 ~ 11	第3章 多様さを増す人間行動と現代世界 [1]多様化する消費生活	○南北問題の現状—産業構造の違いから南北の分業化が進む ○国内にみる消費行動—第三次産業の細分化		
		12	[2]多様化する余暇活動	○余暇を定義する ○豊かさを考える ○リゾート開発の意味そしてその後 ○ボランティアとはNGOとNPO		
	13	-----	----- 第1学期末考査及び解答解説 -----	○日本やアメリカ合衆国のNGOやNPOの活動内容や派遣国について調べてさせる		
第 2 学 期	7 月	14 ~ 15	第2編 世界の生活・文化と現代世界の課題 第1章 世界的視野から見た自然環境と文化 [1]生活舞台としての地形	○大地形—地震と火山の分布、プレートテクトニクス ○人間の生活舞台としての平野—侵食平野、堆積（沖積）平野 ○河川の作用と沖積平野	○地形学習の導入として、身近な地域の地形の成因や人間との関わりについて調べさせる ○小地形については、写真・地形図・地形模型図などを使って具体的に教え、地形が人間生活に大きく関わっていることを理解させる ○身近にある河川の上流から下流までの地形と人間生活の具体例を通して学ばせる ○身近な地域の局地風（地方風）と人間生活との関わりを導入に、その発生要因も考えさせる	第 2 学 期 中 間 考 査
		16	[2]生活舞台としての気候	○大気の大循環—風はどうして吹くの ○地球上の位置が気候を決定する ○気候の違いとそれぞれの生活 ○文化とは何か ○人種と民族 ○宗教と民族	○身近な外国人とのディスカッションを行うなどして、できるだけ多くの外国人と触れ合うことが重要。その場合、相手の国の民族や文化、宗教等を認めることが前提で、事前にその国について学習して質問事項を考えさせたい。また、在日の外国人に聞き取り調査をするのもよい ○世界の主な人種、民族、宗教についてグループごとに調べ学習をして発表させる	
	17 ~ 18	[3]生活舞台としての文化				

第 2 学 期	9 月	19～20	第2章 諸地域の生活・文化と環境 [1]北アメリカの生活・文化と環境	○アングロアメリカと合衆国<WASP> ○合衆国の産業と国際関係 ○ラテンアメリカとは	○第2章はグループごと視点を決めて、調べ学習をしたら有効である ○アメリカ合衆国が多民族国家になった歴史的背景やその問題点などについて、民族の特色を踏まえて考えさせたい。また、世界における合衆国の産業、経済、政治力の優位性についても分析させたい	中 間 考 査	
	10 月	21 22～23	----- [2]ヨーロッパの生活・文化と環境	----- 第2学期中間考査及び解答解説 ----- ○ヨーロッパの統合<EU>	○ヨーロッパにおけるEUの通貨統合や経済格差、東欧諸国との関係など具体的事象を通して考えさせる ○イスラム諸国を考える場合、その精神性を生活環境の厳しい自然環境(乾燥気候)と安易に結びつけないよう留意し、歴史的背景を踏まえて学習させる ○産油国と非産油国、OPEC加盟国と非加盟国を調べ、その相違点がイスラム諸国を考える視点として大切なことを踏まえる ○インドは気候と地形により生活、農業等で地域差があること、経済成長の高い地域の特色を把握させたい ○オーストラリアは先住民と移民との歴史過程、地形や気候についても考えさせたい		
		24	[3]西アジア・北アフリカの生活・文化と環境	○イスラム教が支配する世界 ○乾燥気候そして産油国と非産油国			
	11 月	25	[4]南アジアの生活・文化と環境	○モンスーンの吹く大地 ○インドの国土構造と変化する都市と農村			
		26	[5]オーストラリアの生活・文化と環境 第3章 近隣諸国の生活・文化と日本	○自然と先住民そして白豪主義 ○生活と文化そして産業			
		27～28	[1]近隣諸国と日本	○東アジアと東南アジアの概念 ○日本との関係—侵略戦争から友好関係へ	○日本の近隣諸国については日本との関係史、貿易、人的交流、各地誌などグループ学習をする	第 2 学 期 末 考 査	
		29 30	----- [2]中国の生活・文化と日本	----- 第2学期末考査及び解答解説 ----- ○中国の地誌概観 ○社会主義経済から市場経済へ	○中国については、自然、民族、経済、人口問題、日本との関係、文化と多岐にわたるのでインターネットや書籍で調べさせるのが有効である		
		12 月	31	[3]大韓民国の生活・文化と日本	○韓国の地誌概観—日本の侵略戦争より ○「近くて遠い国」から「近くて近い国」へ		○韓国については、日本との関係、共通文化、経済などの調べほか、近くにいる在日韓国人との交流を通して互いを理解する場を設定したい ○タイの自然、経済、日本との交流は、インターネットや書籍等で調べさせたい
			32～33	[4]タイの生活・文化と日本 第4章 さまざまな地球的課題	○タイの地誌概観 ○文化と経済の交流—日本の産業の空洞化現象		
				[1]世界の人口問	○人口問題の基礎—増加と減少、社会的問題の提起、少子高齢化等		
第 3 学 期	1 月	34	[2]世界の食料問題	○食料生産と分配のアンバランス、飢餓と飽食	○人口問題や食料問題は現代世界を考えるキーワードであるため、視点を絞って考えさせたい。また、事例をもとより具体的に捉えさせたい	第 2 学 年 末 考 査	

第 3 学 期	2 月	35	[3]世界の資源・エネルギー問題	○資源の分布・消費のアンバランス ○資源は有限—将来への展望	○資源・エネルギー・都市問題についても、グローバルな側面と地域的な面と両面から考えさせたい ○世界の環境問題の発生している地域を図化し、問題の発生原因、問題に対する取り組みなど、各々の特色を考えさせたい	学 年 末 考 査
		36	[4]世界の都市問題 [5]世界の環境問題	○都市とは—都市問題と都市政策 ○グローバルな問題—環境汚染の実態		
		37	----- 第5章 地域から見た地球 的課題 -----	----- 第2学年末考査及び解答解説 -----		
	38	[1]中・南部アフリカに見る 食料問題	○気候環境と地域紛争—サヘルの南下、内乱 ○生産性の低い農業—経済の自立への協力	○サヘルの食料問題については、いろいろな原因を探り、国による現況の違いなどを捉えさせる		
	3月	39～40	[2]インドネシアに見る都市・居住問題と資源・エネルギー問題 [3]ブラジルに見る環境問題	○インドネシアの地誌の概観—アジア最大のイスラム教国の悩み ○都市化と工業化による環境汚染の発生 ○アマゾン（セルバ）の持続可能な発展とは	○インドネシアは宗教、政治等東南アジアでも特異的な国であるので、その歴史、日本との関係など詳しく考察させたい ○アマゾンの環境の変化は世界の環境に大きく影響している面と、その国の経済事情等いろいろな側面から考えたい	

校長	教頭	教頭

科目名	世界史A			教科名	地理歴史
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	印

1 学習の到達目標

学習の到達目標	1. 近・現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連づけながら理解する。 2. 人類が直面する課題を政治・経済・社会・文化・生活など様々な観点から考察させることによって、歴史的思考力を養う。 3. 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身につける。
使用教科書・副教材等	帝国書院「46 明解 世界史A 最新版」 帝国書院「46 地歴高等地図 ー現代世界とその歴史的背景ー」 帝国書院「明解 世界史Aノート」

2 科目全体の評価の観点趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史的枠組みとその形成過程に関心をもっている。 世界の歴史について主体的に学ぶ姿勢を身につけ、意欲的に探求している。 	<ul style="list-style-type: none"> 近現代を中心とする世界の歴史について、我が国の歴史と関連づけて多角的・多面的に考察することができる。 その意義を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や副教材、プリントなどの資料から適切な情報を読みとり、効果的かつ客観的に活用できる。 世界の歴史に関する知識、自己の考えなどを表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 近現代を中心とする世界の歴史に関する基本的な事項を把握し、理解している。
<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加の態度 作業プリント 提出物 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 作業プリント 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 作業プリント 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 作業プリント 定期考査 提出物

3 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内 容	判定基準	得 点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定

※評価簿の作成を行う。

4 各学期及び学年の評価方法

評 価 内 容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	85～100	5
十分満足できると判断されるもの	70～84	4
おおむね満足できると判断されるもの	55～69	3
努力を要すると判断されるもの	35～54	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

※各学期及び学年は、次の「学習計画及び評価方法」で記載する。

科目名	世界史A		教科名	地理歴史
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名 印

校長	教頭	教頭

学期	学習内容	配当時間	月	考查範囲	学習のねらい・目標・(評価の観点)	備考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動との関連など)	
第1学期	オリエンテーション 教科担任及び生徒の自己紹介 授業や評価方法についての紹介	1	4月		歴史に対する興味関心や学ぶことの大切さを意識させる。		
	第1部 諸地域世界との交流圏 序章 人類のはじまり 1 地球に登場した人類と文明 1章 東アジアの世界 1 東アジア世界の風土と人々 2 中国に統一国家生まれる	2 3		中 間	人類の起源を理解させ、農耕・牧畜について人類史におけるその意義を考察させる。(関) 黄河文明、秦・漢帝国からモンゴル帝国に至る古代・中世中国の歴史展開の中で培われた社会・文化の特質を理解させる。(関・思・技・知)	第1部に関しては、「地理A」や「地理B」で学習する世界の諸地域の内容との関連に留意する。	
	3 東アジアのもう一つの勢力 4 東アジアの国際的な大王朝 5 諸民族によって統治された時代			考 査			
	2章 南アジア世界 1 南アジア世界の風土と人々 2 数々の宗教が成立した南アジア	8	5月		インドを中心とした南アジア世界が、宗教と社会制度を共通の基盤として一つの地域世界を形作ったことを把握させる。(関・技) 東南アジア世界をインドや中国との関係から概観させる。(関・技・知)	各宗教については、「現代社会」や「倫理」で学習する内容との関連に留意する。	
	3章 東南アジア世界 1 東南アジア世界の風土と人々 2 インドと中国の文化のはざままで	10		期			
	4章 イスラーム世界 1 イスラーム世界の風土と人々	13		末	エジプト文明やメソポタミア文明から、イスラームの成立とその拡大によって成立したイスラーム世界の各王朝についての歴史展開を理解させる。(関・技)		
	2 オリエントの古代文明 3 イスラーム世界の誕生 4 イスラーム帝国の栄光と分裂		6月	考 査			
	5章 ヨーロッパ世界 1 ヨーロッパ世界び風土と人々 2 一つの世界だった地中海 3 祈る人・戦う人・働く人 ーヨーロッパ封建社会の成立ー 4 「まち」「くに」の発達 ーヨーロッパ中世ー	17			ギリシャ・ローマ文明の伝統からキリスト教の発展を概観し、ヨーロッパ封建社会の成立についてその背景と仕組みを理解させる。(関・技・知)		
	6章 南北アメリカ 1 南北アメリカの風土と文化 2 独自の文明を築きあげた南北アメリカ	21	7月	第2 学期	大航海時代以前の南北アメリカ大陸での、マヤ文明、アステカ文明、インカ文明について歴史概観を確認させる。(関・技)		
	7章 ユーラシアの交流圏 選択1 海域世界の成長とユーラシア 選択2 遊牧社会の拡大とユーラシア 選択3 地中海海域とユーラシア 選択4 東アジア海域とユーラシア	23		中 間 考 査	ユーラシア大陸における交流圏を国際交易や文化交流に視点をおきながら理解させる。(関・思・技・知)	7章については、二つを選択して学習する。また、1章や6章の選択4において、日本の歴史を取り上げ、世界の中における日本をとらえさせる。	
	【課題・提出物等】 ワークノート、課題プリントなど提出物について						
	【第1学期の評価方法】 考查評価、課題追求学習、課題プリントへの取り組み状況などの割合評価						

科目名	世界史A		教科名	地理歴史
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名
				印

学期	学習内容	配当時間	月	考查範囲	学習のねらい・目標・(評価の観点)	備考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動との関連など)	
第2学期	第2部 一体化に向かう世界	25 ～	9月	中 間 考 査	モンゴル帝国解体後に成立したアジア各地域における諸王朝について、その歴史概観を理解させる。(関・技)	近・現代史は内容が過密になりがちなので、指導計画を作成する上では、基本的なもの、本質的なものを精選し、重点化するようにする。	
	1章 繁栄するアジア						
	1 モンゴル帝国のあとにおこった諸大国						
	2 イスラーム諸王朝の繁栄						
	3 返り咲いた漢民族王朝	29 ～			ルネッサンス、宗教改革による近代ヨーロッパの形成や、大航海時代におけるヨーロッパ諸国の世界進出の背景、主権国家制の確立についての歴史概観を理解させる。(関・技・知)		
	4 中国全土に広がる辨髪						
	1 清帝国の繁栄						
	2章 大航海時代を迎えるヨーロッパ						
	1 ヨーロッパの目覚め	33 ～	10月	末 考 査	産業革命による資本主義社会成立と世界の一体化について理解させるとともに、アメリカ独立戦争、フランス革命、ウィーン体制などの諸革命について歴史概観を理解させる。(関・技・知)		産業革命や市民革命については、中学校社会科の学習内容や高等学校での公民科などとの関連に留意する。
	2 大航海時代がはじまる						
	3 アジアの交易に参入するヨーロッパ						
	4 ヨーロッパの国づくりと国際関係						
3章 ヨーロッパとアメリカの諸革命							
1 産業革命という大変革の開始							
2 イギリスから独立するアメリカ	39 ～	11月		ウィーン体制の動揺と崩壊から自由主義運動、国民国家の発展に至る過程を理解させる。ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の進展と国民国家の形成過程について理解を深めさせる。(関・技)			
3 ヨーロッパ近代化の出発点							
4 ナポレオンのヨーロッパ支配からウィーン体制へ							
5 大西洋を越えて広がる革命の波							
6 市民社会の誕生と社会主義運動の発生	44 ～			欧米列強によるアジア諸国の植民地化や従属化の過程から、アジアにおける社会や経済の変動、地域秩序の変容などを把握させる。(関・思・技・知)	ヨーロッパ諸国による植民地化や従属化の過程をあつかう際のアジア諸国の抵抗、近代化への動き、民族意識の形成については、ヨーロッパの進出に対する受動的な対応だけではなく、社会変革へのアジアの主体的な動きにも着目させるようにする。		
7 “世界の工場”イギリス							
4章 自由主義・国民主義の進展							
1 1948 - 19世紀の転換点							
2 国民国家の発展と列強の世界進出	48 ～	12月	学 年 末 考 査	東アジア、特に日本・中国における近代化について理解させ、日清・日露戦争時の東アジアの国際関係や、中国の辛亥革命などについてその歴史概観を理解させる。(関・思・技・知)			
3 アレクサンドル2世とロシア革命							
4 リンカンと南北戦争							
5 科学の世紀 - 19世紀の文化							
5章 アジア諸国の動揺	48 ～						
1 オスマン帝国の弱体化							
2 エジプト・スーダンとイラン							
3 ムガル帝国の崩壊とインド大反乱							
4 東南アジアの植民地化	48 ～						
6章 東アジアの大変動							
1 中国と日本の近代化							
2 アジアにおける工業化と日清戦争							
3 東アジアをめぐる国際関係	48 ～						
4 孫文が導いた辛亥革命							

シラバス

科目名	世界史A		教科名	地理歴史
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名 印

3 / 4

学期	学習内容	配当時間 月	考查範囲	学習のねらい・目標・(評価の観点)	備考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動との関連など)
第2学期	第3部 現代の世界と日本 1章 現代世界のめばえ 1 第2次産業革命と大衆社会の出現 2 世界を分割する帝国主義 3 世界の一体化と人口移動 2章 第一次世界大戦がもたらしたもの 1 ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 2 第一次世界大戦はじまる	52 ～ 55 ～	学年末 考查	第2次産業革命の進行にともなう商品と資本の流れの拡大を理解させ、帝国主義による世界分割とそれによる世界規模での人口移動について理解させる。(関・技・知) 第一次世界大戦の要因や総力戦としての性格、経過と結果について理解させる。その後の世界の諸地域への影響について概観させる。また、アメリカの大量消費生活についても概観させる。(関・技・知)	
	【課題・提出物等】 1 学期に準ずる				
	【第2学期の評価方法】 1 学期に準ずる				

科目名	世界史A			教科名	地理歴史
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名	印

学期	学習内容	配当時間	月	考查範囲	学習のねらい・目標・(評価の観点)	備考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動との関連など)
第3学期	3 ロシア革命と民族の問題 4 ウィルソンとヴェルサイユ体制 5 あこがれの生活 アメリカの大量消費社会 3章 “民族自決”を求めて 1 インド・中東の民族運動 2 東アジアの民族運動 一三・一運動と五・四運動一	60	1月	学年末	インドの民族運動についてその経過と結果を理解させる。 朝鮮での三・一運動や中国での五・四運動など抗日運動について理解させる。(関・思)	歴史的な文献資料以外にも、新聞、雑誌、パンフレット、生活用具など歴史を具体的にとらえることのできる資料や、写真、映画、ビデオなどの視覚教材を適切に授業で生かすようにする。 核兵器の脅威に関する認識、あるいは戦争を防止し民主的で平和な国際社会を実現しようとする意識などを育成するために、教師が一方的に教え込むのではなく、生徒自身に課題を選択させて調べさせたり、成果を発表し、学級全体で議論したりする場面を設定するようにする。
	4章 経済危機から第二次世界大戦へ 1 世界恐慌とローズヴェルト 2 ファシズムの台頭ームッソリーニとヒトラーー 3 日本が引き起こした日中戦争 4 第二次世界大戦の開始 5 第二次世界大戦の終結 5章 冷たい戦争と国際社会の変化 1 新しい対立と協調のはじまり 2 二つ陣営の“冷たい戦争” 3 達成されるアジアの独立 4 多極化する世界 一第三勢力の形成と西欧・日本の復興一 5 ゆらぐアメリカ・ソ連	62	2月	考査	アメリカから始まった世界恐慌が、国際秩序に危機をもたらし、ファシズムの台頭による国際対立から第二次世界大戦に至った歴史展開を、日本の状況をふまえながら理解させる。(関・思・技・知)	
	6章 地域社会の到来 1 先進工業国の模索 2 冷戦の終わりとかわる社会主義 3 国々が抱える現在の課題 4 世界は国境を越えて	65	3月	考査	第二次世界大戦後における米ソを中心とした東西冷戦体制の構築過程を理解させる。(関・思・技・知) アジア・アフリカ諸国における独立運動や地域紛争、そして平和共存への模索と多極化する国際社会を通して、冷戦期の世界の動向を理解させる。(関・思・技・知)	
	【課題・提出物等】 1 学期に準ずる	68			第二次世界大戦後における国際紛争や核兵器問題、人種・民族問題など、国際社会が抱える諸問題を歴史的観点から追究させ、国際協調の意義と課題を考察させる。 科学技術の発展による現代文明の課題を考察させる。(関・思・技・知)	
	【第3学期の評価方法】 1 学期に準ずる	70				
	【年間の学習状況の評価方法】 考査評価、課題追究学習、課題プリントへの取り組み状況などの割合評価					